

# ISO TC215 WG2 報告

## 医療情報学連合大会の内側

日本HL7協会会長  
浜松医科大学医療情報部  
木村通男



# ISO TC215 WG2

- ⌘ 1/19 WG2 virtual, 次回は4/6 virtual
- ⌘ 眼科機器2件、LOINCコード待ちで延長してDTSへ
- ⌘ PDI トークン 無事TSに
- ⌘ SS-MIXストレージ、DTS投票済、賛成多数であるが、意見も多かったので、対応して再度DTS投票へ
- ⌘ MFER Part2 12誘導、Part3 ホルター、TSからISへ
- ⌘ 慌ててEUもSCP-ECGをアップデート
- ⌘ 循環器ケースカード(SEAMAT) TRに
- ⌘ 放射線治療支援データ形式 DTSへ
- ⌘ 他、韓国からAI, international HR, ADAから歯式。

# 第40回医療情報学連合大会

⌘ 2020/11/19-25

☑ JCMi40 2,848名 (JCMi39 2,909名)

☑ APAMI2020 54名

⌘ テーマ: 医療をはかる

— 測、規、図、諮、謀、慮 —

Informatics Shape Healthcare

-standardize, visualize, configure, influence, make measurable, determine, plot,-

⌘ ご参加、ご協力、ご協賛ありがとうございました

☑ 企業協賛1,677万 (JCMi39 3,241万)

# ハイブリッド開催 ポリシー1

## ⌘ テーマの一つは適切なリスク評価

☑ 情報システムを超えて、医療についての適正なリスク評価、がテーマの一つであったが、大会運営のリスク評価と受容までおこなうことになった。

## ⌘ 学術集会とは、セッションにあっては質疑のラリーによる議論の深まり、医療情報学会ならではのデモ、およびロビーでは情報交換、人間関係構築、展示などでは情報収集、商機の涵養

☑ 音入りのPowerpointを送らせて流す、質疑はメール、は論外で、チャットでの議論の深まりがないことは春季で判った。

☑ また、反応のない聴衆相手にはよい講演ができない。

☑ この結果、インターアクティブハイブリッドを目指した。これも医療情報学会の使命である。

# ハイブリッド開催 ポリシー2

## ⌘ オンサイトでできることをオンライン「でも」できるようにする

☑ スペックの上限を見て、複数の大きな変更を加えることは重大な問題の元である。このリスク評価の上で、付加的に可能となる機能は妨げない。

☑ 具体的には、オンサイトではできないテキストコミュニケーション(チャットなど)は前提としない、など。

## ⌘ プレゼンターの種類に対応

☑ オンラインで自分で操作、持参のPCでデモ、プレゼン操作をHDMI, Dsub15、Powerpointファイルをフラッシュメモリで持参

☑ リハーサルをおこなわず、当日文句を言うプレゼンター、果てはコーディネーターまでいた。これらに対応すべきか？ 演者へのムンテラをおこなわない共同企画コーディネーター、なども。

☑ 学術団体は同人で、交代に主催している、という前提を理解していない参加者が増えた。営利興行なら不課税とはならない。

# ハイブリッド開催 ポリシー3

## ⌘ 妥当な(過度でない)リスク評価による対策

- ☑ デイスタンス、スクールスタイル、消毒液、COCOA
- ☑ 県境を跨いだ移動禁止、に備え、静岡県からばかり実行委員をリクルート。学生が使えない。
- ☑ これも範を垂れるJAMIの役割。

## ⌘ プログラム編成

- ☑ 特別講演の裏番組設定せず。
- ☑ オンライン参加者への事前対応のため、セッション間時間を多く取る。
- ☑ デイスタンスのため、小さい部屋も大きく使う必要があると考えた。
- ☑ 結果、5日間開催となった。

# ハイブリッド開催 ポリシー4

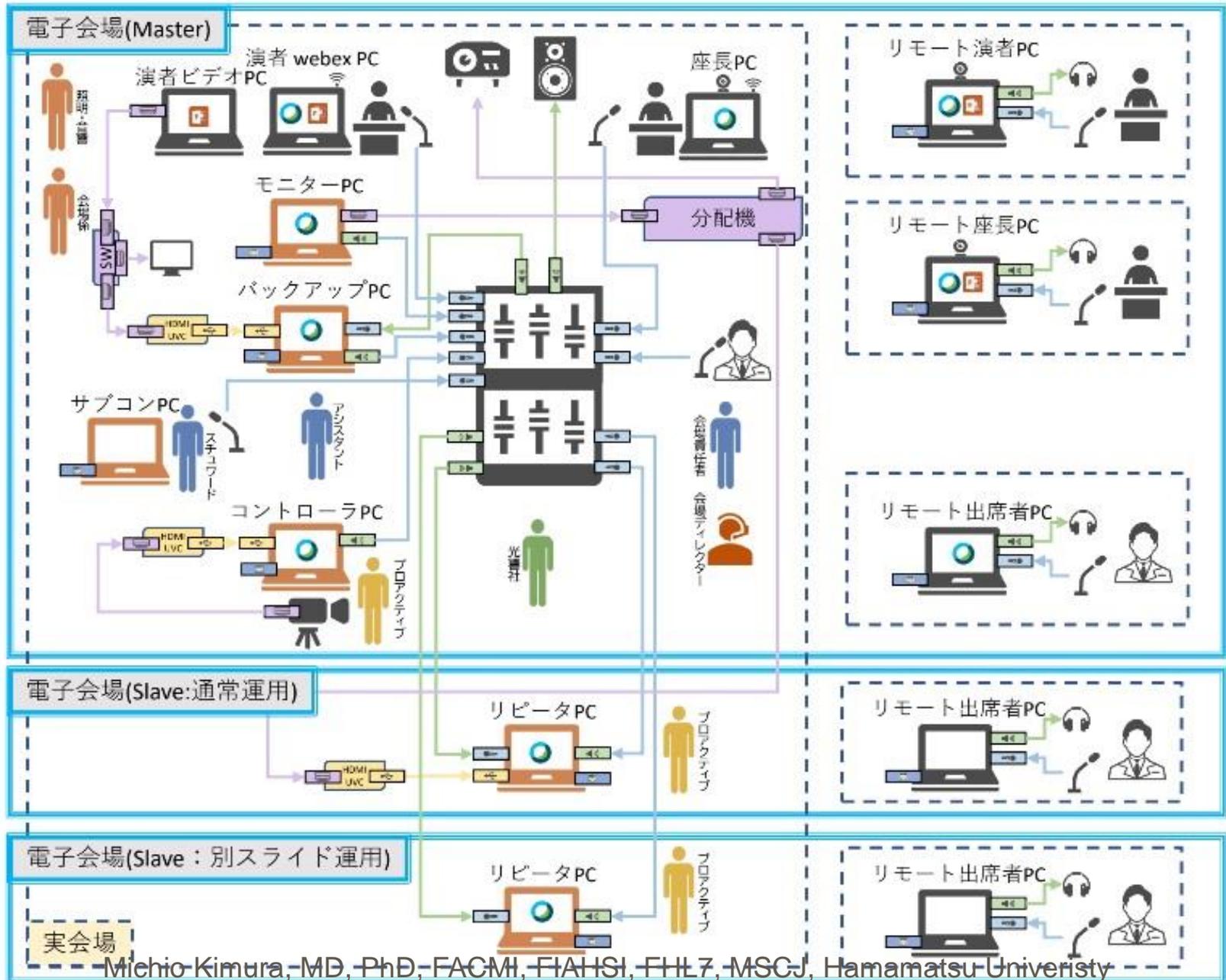
## ⌘ 実行委員の役割

- ⊞ 各種のオンサイト発表者・座長の対応、オンライン発表者・座長の前準備、フロアの質問の間、挙手の発見、座長への伝達、アンミュート・ミュート指示。
- ⊞ 各分野をリードして今後オンライン会合を仕切るこれらの研修こそが、医療情報学会員、医療情報技師の地位向上と考えた。

## ⌘ 参加者の個人情報の保護(参加者の情報を守れなければ、患者の情報も守れない)

- ⊞ この観点から、Zoomは論外。WebexとMS Teamsで比較し、破格のディールを出してきたCISCO Webex meetingに決定。(Meeting3000を2本、1000を15本)。

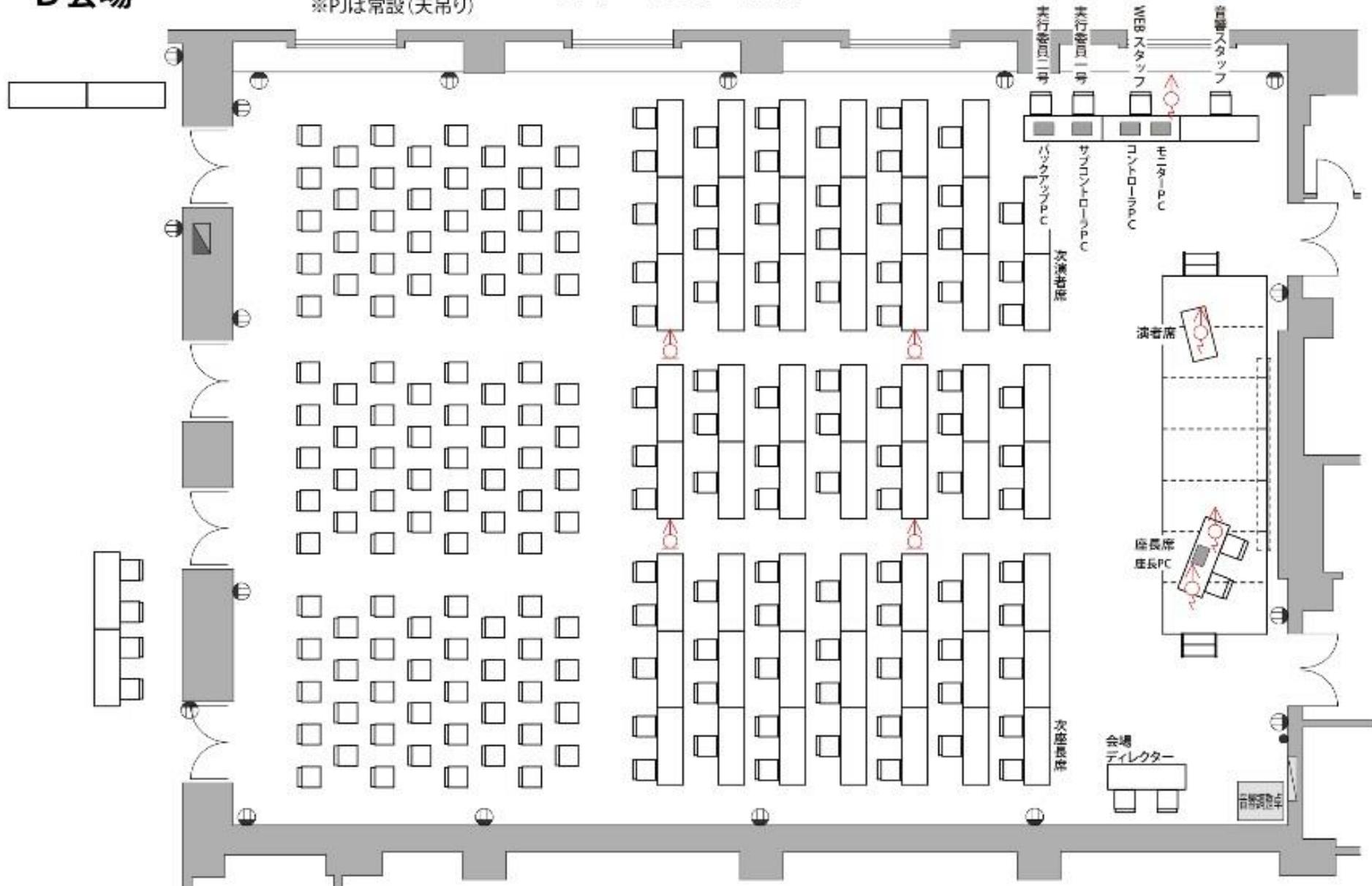
# A会場AV (物理) 結線図



# B会場

スクール:83席  
シアター:108席 191席

※PJは常設(天吊り)



Michio Kimura, MD, PhD, FACMI, FIAHSI, FHL7, MSCJ, Hamamatsu University

# B会場: HL7チュートリアル



# A会場



Michio Kimura, MD, PhD, FACMI, FIAHSI, FHL7, MSCJ, Hamamatsu University

# 11/19



大会長講演	207	100	<b>307</b>	大会長講演
大会企画1	162	110	<b>272</b>	10年後・20年後の電子カルテと健康医療情報システム
大会企画2	92	437	<b>529</b>	インターネットを活用した医療提供サービスのこれから～患者を慮る仕組みづくり～
学会企画	27	163	<b>190</b>	子育て・介護世代とリモートワーク～医療情報学会のバーチャル職場へのチャレンジ～
共同企画1	74	109	<b>183</b>	臨床データベースから見えてくること:ビッグデータを医療に活かす(日本腎臓学会)
共同企画2	48	90	<b>138</b>	AMED ePath事業のアウトカム～統合解析報告～(日本クリニカルパス学会)
共同企画3	78	279	<b>357</b>	急速に広がるオンライン診療・遠隔医療におけるサイバーセキュリティを考える(遠隔医療学会・医療機器学会)
共同企画4	13	68	<b>81</b>	パンデミックを含む災害時の糖尿病管理と医療情報(日本糖尿病学会)
共同企画5	40	106	<b>146</b>	情報活用;データ駆動型(Data Driven)医療経営への展開(日本医業経営コンサルタント協会)
共同企画6	21	91	<b>112</b>	医用画像情報専門技師、10年の取り組みと今日からの一歩(医用画像情報専門技師共同認定育成機構、日本放射線技術学会)
教育講演	11	66	<b>77</b>	社会医学系専門医制度専門医・指導医講習会
公募シンポジウム1	45	136	<b>181</b>	SS-MIX2ストレージ活用事例～地域医療連携とエビデンス創出を図る～
公募シンポジウム2	13	90	<b>103</b>	安全安心なデータ流通プラットフォームとセキュリティ基盤技術
公募シンポジウム3	36	134	<b>170</b>	国際的医薬品規制・臨床研究におけるリアルワールドデータ活用のいま
公募ワークショップ1	77	238	<b>315</b>	新しい標準HL7FHIRの国内実装に向けた検討とOpen FHIRサーバ開発
公募ワークショップ2	12	45	<b>57</b>	クリニカルシーケンスデータの標準化

# 11/20



学会大会企画	106	108	<b>214</b>	With/Beyondコロナ時代の医療情報のあり方を図る
大会企画3	47	74	<b>121</b>	医療機関・薬局における薬剤師業務・研究の進展と医療情報への期待
共同企画7	29	45	<b>74</b>	データ駆動型臨床研究ノスメ ～MID-NETの経験から～(臨床検査医学会)
共同企画8	125	416	<b>541</b>	医学医療におけるAI応用(人工知能学会)
共同企画9	60	170	<b>230</b>	国際標準バーコード・RFIDの活用で、モノの情報連携を図り診療を測るー関連法規の改正と、医療機器メーカー、医療機関の新しい動きー(GS1ヘルスケアジャパン協議会)
公募シンポジウム4	72	222	<b>294</b>	ICD-11国内適用の現状と課題
公募シンポジウム5	37	126	<b>163</b>	リアルワールドエビデンスを創出するための臨床中核指定病院ネットワークの取り組み
公募ワークショップ3	80	259	<b>339</b>	「タスク・シフティング」を意識した電子カルテ代行入力の在り方を語る
公募ワークショップ4	21	102	<b>123</b>	Inside OHDSI (世界最大のRWDネットワーク、オデッセイの内側)
公募ワークショップ5	30	148	<b>178</b>	Society5.0時代に期待されるDWHを活用した新たな価値の創成と共有への提言

# 11/21,22



APAMI開会式	87	85	<b>172</b>	APAMI開会式
特別講演1	123	85	<b>208</b>	[JCMI/APAMI Special Keynote Session 1] HL7 FHIR
特別講演2(学会長講演)	34	400	<b>434</b>	[JCMI/APAMI Special Keynote Session 2] Patient Engagement
公募シンポジウム8	26	66	<b>92</b>	歯科医療の変曲点で我々なにをなすべきか
公募ワークショップ6	79	80	<b>159</b>	調剤業務と医療情報システムのこれからの図るー「調剤業務のあり方について」における情報通信技術の活用に関する提言ー
公募ワークショップ7	120	400	<b>520</b>	COVID-19パンデミック対策としての広域および医療機関内情報システムの検討

特別講演3	66	400	<b>466</b>	[JCMI/APAMI Special Keynote Session 3] ICD11
産官学連携企画1	54	90	<b>144</b>	医療情報システムの貢献を測り、展望を図る(第1部)
産官学連携企画2	55	200	<b>255</b>	医療情報システムの貢献を測り、展望を図る(第2部)
共同企画10	48	248	<b>296</b>	退院時サマリー Now and Beyond ~有用なpatient summaryの確立へ~ (日本診療情報管理学会)
共同企画11	36	142	<b>178</b>	薬剤情報の連携のこれからの課題(保健医療福祉情報システム工業会 & 日本病院薬剤師会)
公募ワークショップ8	19	106	<b>125</b>	感染症対策目的での医療情報の取り扱いと法倫理:COVID-19対策から見えた課題

Michio Kimura, MD, PhD, FACMI, FIAHST, FHL7, MSCJ, Hamamatsu University

# ランチョン、スイーツ

ランチョンセミナー	50	112	<b>162</b>
ランチョンセミナー	60	82	<b>142</b>
ランチョンセミナー	128	85	<b>213</b>
ランチョンセミナー	75	134	<b>209</b>
スイーツセミナー	84	79	<b>163</b>
ランチョンセミナー	60	116	<b>176</b>
ランチョンセミナー	154	296	<b>450</b>
ランチョンセミナー	125	148	<b>273</b>
スイーツセミナー	117	183	<b>300</b>
ランチョンセミナー	120	220	<b>340</b>
ランチョンセミナー	108	74	<b>182</b>
ランチョンセミナー	110	254	<b>364</b>
ランチョンセミナー	100	240	<b>340</b>

11/23



⌘ 浜松医大病院システムバーチャルビジット

⌘ 250名

# 今回副産物として可能となった事項

- ⌘ 会場投影スライド(英語版)を見ながら、手元で翻訳版を見る
- ⌘ 他会場を覗き見る
- ⌘ 途中帰郷後、またWeb参加できる
- ⌘ 後視聴コンテンツが得られる
- ⌘ バーチャルビジット
- ⌘ 50人登録のAPAMIの一般セッションに70人くらいの視聴があり、「国際学会の覗き見」の機会となった
- ⌘ (主として静岡県の)実行委員の(一部の)Web開催の経験値が上がった
- ⌘ この状況でどこまでリスクに踏み込めるかを知った。

# 今後のハイブリッド形式開催における検討(検証)事項



## ⌘ チュートリアルについて

☑ フルサービスは必要か？

## ⌘ 会場借用について

☑ 結果、会場は隙いたので、4日間でよかった

## ⌘ 技師ポイントについて

☑ 他の、特に支部会で3ポイントを「行くことなく」得られ、JCM139より250人技師の参加が減った

## ⌘ Web会議システムについて

☑ CISCOが、医療情報学会さんなら、とバーゲン

## ⌘ Web参加者への冊子体・CD発送(1,500千円)は必要か？

# 今後の企業協賛について



⌘ ランチョン、スイーツは、驚くほどのオンライン参加があった

☑ より以上にご出稿を

⌘ 画面信号を送る方法で、システム（プロダクト）デモが有効である

☑ ホスピタリティールームの代替？

⌘ フロア展示にはデモスロットを。



# 部品集 2021

⌘ 企業数145社

⌘ 製品情報数408

☑ HL7対応

☑ SS-MIX対応

☑ 厚労省標準対応

Michio Kimura, MD, PhD, FACMI, FI

## 電子カルテ・医療情報システム 部品集 CD-ROM (Hybrid 版)

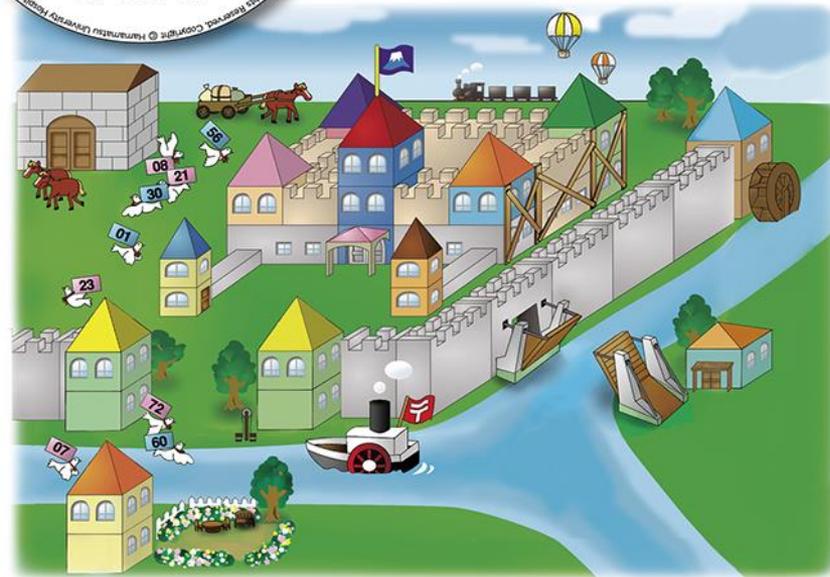
Directory of Electronic Health Record System and Components

編集 木村 通男 浜松医科大学医学部附属病院医療情報部



# 2021

厚生労働省標準規格準拠が一目でわかる！  
SS-MIX対応製品のストレージ利用範囲もわかる！



インナービジョン 発売

# End of presentation



懇親会にて

Michio Kimura, MD, PhD, FACMI, FIAHSI, FHL7, MSCJ, Hamamatsu University